

Contents

《マンモトーム特集》

- ◆マンモトームとは
- ◆超音波ガイド下マンモトーム生検
- ◆超音波検査士の役割

- ◆マンモグラフィ認定技師の役割
- ◆ステレオガイド下マンモトーム生検
- ◆マンモトーム生検における看護師の役割

マンモトーム特集

はじめに

プレストセンター センター長 関 大仁



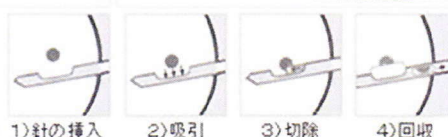
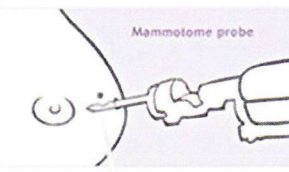
現在、我が国において乳がん患者数は増加の一途を辿り、女性がん罹患率の中では最も高い割合を占めております。中でも非浸潤性乳管癌 (DCIS; ductal carcinoma in situ) の割合が相対的に多くなっている傾向がありますが、これは乳がん検診の啓蒙活動のみならず、画像診断精度の向上により数mmの小さな腫瘍 (しこり) や微細石灰化のみを呈する乳がんの早期診断が可能になったことに起因します。乳がんは他の固形がん 비해、罹患率が高い反面、早い段階で適切な対処がなされれば根治性の高い疾患でもあります。

当院では乳腺領域における精度の高い診断と充実した集学的治療を目的にプレストセンターが開設されました。センター開設後、最新のデジタルマンモグラフィ装置や乳腺専用超音波装置ならびに吸引式針生検 (マンモトーム) の導入により、従来では診断のつきにくかった微細な病変を抽出し、乳がんの早期発見・早期治療に努めております。

マンモトームとは

マンモトームとは、画像ガイド (超音波ガイドまたはステレオガイド) で使用する特殊な吸引式組織生検システムです。腫瘍などの超音波検査で病変が描出可能なものは超音波ガイド下で行い、微細石灰化像などのマンモグラフィでしか描出されない病変に対してはステレオガイド下で行います。従来の針生検に比べ、小さな傷でより多くの組織を採取し、確実な病理組織診断が行えるのが特徴です。

従来の針生検に比べ、小さな傷でより多くの組織を採取し、確実な病理組織診断が行えるのが特徴です。



超音波ガイド下マンモトーム生検

通常、超音波で検出可能な病変に関しては細胞診や針生検を行います。しかし、なかにはこれらの検査でも診断がはっきりしないこともあります。今まではこのような症例に対して外科的摘出生検を行うことがありましたが、マンモトーム針を用いることで従来のように大きく皮膚切開をしなくても診断がつけられる可能性が高くなりました。従来の針生検との違いは、1回の穿刺でより多くの検体が採取できることです。傷も3~4mmと小さく、外科的切開生検のように乳房の変形などは起きません。検査時間は20分程度ですがその後、20分ほど圧迫止血をしながらお休み頂き、異常がないことを確認してからご帰宅となります。

超音波検査士の役割



超音波は数ミリの小さな腫瘍も抽出することが可能です。放射線被ばくを避けたい妊娠中の方、若年の方、乳腺症の影響でマンモグラフィでは良好な撮影ができない方などには超音波検査が適

しています。

当院では乳房超音波検査は全て資格を持った女性臨床検査技師が担当しております。全ての患者さまが安心して検査をお受け頂けるよう配慮しておりますが、ご不明な点がありましたら遠慮なくご相談下さい。(中嶋 純子)

マンモグラフィ認定技師の役割

マンモグラフィ撮影及びステレオガイド下マンモトーム生検は、全てマンモグラフィ認定資格を有する女性技師が担当しています。マンモグラフィ検査で最も重要なのはポジショニング（乳房の固定の仕方）です。これが不適切だと病変を正確に描出出来ない可能性があるため、私たちは患者さま一人ひとりのお胸の形状に合わせて最適なポジショニングをするよう努めております。また、検査内容を事前に説明し、痛みが強い場合には声を掛けて頂くよう配慮しております。

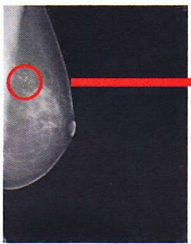
ステレオガイド下マンモトーム生検は約40分程度乳房を圧迫した状態で、数mmの微細な石灰化病変をターゲットに乳腺組織の一部を採取する特殊な検査です。より高度な検査技術が要求されると同時に、患者さまの負担は通常のマンモグラフィ撮影よりも大きくなります。このため、技師はターゲットとする微細石灰化への最適なアプローチ方法を事前によく検討します。さらに、毎週行われているプレストセンターカンファレンスで乳腺外科医、放射線科医、看護師と情報を共有し、検査当日は可能な限り患者さまの負担を少なく、スムーズに、そして確実に標的病変を採取するよう努めております。

私たちは、これからも知識や技術の向上のみならず、少しでも患者さまの不安や苦痛を軽減出来るよう努めてまいりますので、ご不明な点がありましたらいつでもご相談下さい。（佐山 春香）



ステレオガイド下マンモトーム生検

マンモグラフィ



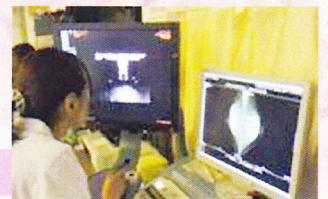
多形・不均一な集簇性微細石灰化像

左乳房内微細石灰化所見に対してマンモトーム生検を施行し、早期乳癌と診断

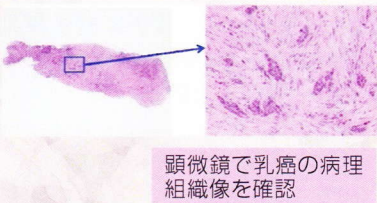
微細石灰化病変のように「超音波でははっきりしないがマンモグラフィでは検出できる病変」が適応となります。石灰化の多くは良性ですが、ごく早期の乳がんが石灰化で発見されることがあります。石灰化の悪性度はその形状や分布から5段階にカテゴリー分類されます。1～2は良性、3は良性だが悪性を否定できない、4は悪性の疑い、5は悪性と考えられる病変となります。カテゴリー3以上の場合、マンモトームの適応となります。



マンモトーム生検のためのポジショニング



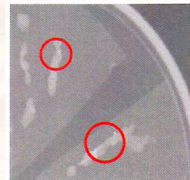
病変の同定



顕微鏡で乳癌の病理組織像を確認

ステレオガイド下マンモトーム生検

X線撮影によって採取した乳腺組織内に微細石灰化が含まれていることを確認



生検により採取した乳腺組織

マンモトーム生検における看護師の役割

マンモトーム生検は少なからず精神的および身体的苦痛を伴う検査です。私たち看護師はカンファレンスで患者さま一人ひとりの情報をもとに、予測される不安に対して十分な配慮が出来るよう事前にオリエンテーションを実施しております。検査中は言葉かけをするだけでなく表情にも目を配らせて、必要な場合には手を握るなどして患者さまの緊張や不安が少しでも和らぐよう心掛けております。検査後は言葉かけをしながら圧迫止血を十分に行い、疼痛や不安が軽減できるように帰宅後の過ごし方を指導します。これからも患者さまにより安心して検査をお受け頂くことができるための環境づくりに努めていきたいと思っております。（久賀 明美）



・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会を開催しました。

平成25年10月12日(土)、19日(土)の両日、「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」を開催しました。講義のほか、ロールプレイやグループでの症例検討などを行い、より実践に即した研修会となりました。今後もこのような研修会を通じて、質の高い緩和ケアを提供できるように努めてまいります。

・市民公開講座を開催しました。

平成25年10月27日(日)に、埼玉医科大学国際医療センター放射線腫瘍科鹿間直人 教授をお迎えし、市民公開講座「前立腺がん―検診から診断・治療まで」を開催しました。当院からは、泌尿器科入江医師・石井医師、嶺井医師、が参加し、前立腺がんの検診・診断・治療について講演を行い、85名の方にご参加いただきました。今後も継続的に開催する予定です。

・乳がんセミナーを開催しました。

平成25年11月2日(土)に、乳がんセミナー、一知っておきたい、乳がんのこーを「乳がんとうき合う」をテーマに開催しました。当日は、関医師、中山医師、荻原看護師が講演を行い、65名の方にご参加いただきました。今年度は、第2回目のセミナーを開催する予定です。

プレストセンターの活動業績（平成25年）

- | | | |
|-----------|--|---|
| 講演 | ・5月 医療連携話会 | ～当院における乳がん診療とプレストセンターの役割～ |
| | ・10月 つくし会総会 | ～乳癌検診と乳がん診療～ |
| | ・11月 乳がんセミナー | ～乳がんとうき合う～ |
| 学会発表 | ・第113回 | 日本外科学会定期学術集会 |
| | ・第21回 | 日本乳癌学会学術総会 |
| | ・第23回 | 日本乳癌検診学会学術総会 |
| | ・第10回 | 日本乳癌学会関東地方会 |
| | ・9th | American Association for Cancer Research-JCA (AACR-JCA) |
| | ・13th | St.Gallen Breast Cancer Conference |
| | ・Asian | Oncology Summit (AOS) 2013 |
| ・38th | European Society for Medical Oncology (ESMO) | |
| ・Advanced | Breast Cancer Second International Consensus Conference (ABC2) | |

腫瘍センター News（第4号）平成26年2月1日発行
北里大学北里研究所病院
東京都港区白金5-9-1 TEL 03(3444)6161【代表】
編集責任者 腫瘍センター センター長 浅沼 史樹
<http://www.kitasato-u.ac.jp/hokken-hp/>